

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
251	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Wine consumption by hazardous drinkers before and after pregnancy recognition. アルコール依存者における妊娠自覚前後のワイン飲酒について	
執筆者	
Rayburn BB, Rayburn WE, Meng C, Handmaker NS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Reprod Med. 2007; 52: 871-873	
キーワード	
飲酒、 胎児性アルコール症候群、ワイン	
要 旨	
<p>(目的)</p> <p>アルコール依存症における妊娠自覚前後のワイン飲酒パターンを調査する。</p> <p>(方法)</p> <p>アルコール依存症の定義は標準化された質問票により飲酒調査を行い、飲酒頻度と大量飲酒のエピソードの有無により定義した。当院にて妊娠初診時にアルコール依存症とみなされた患者に対して妊娠自覚前後、妊娠中と分娩後に飲酒頻度と一日当たりの飲酒量、アルコールの種類について調査した。</p> <p>(結果)</p> <p>4,494 人中 203 人が妊娠自覚前はアルコール依存症であったと診断された。対象者は妊娠中と分娩後に問診を受けた。約 4 分の一(49 人,24.1%)がワインを飲酒しており、その大半(45 人,91.8%)が他のアルコールも一緒に飲酒していた。ワイン単独飲酒者は大量飲酒ではなく中等量飲酒が多かった。アルコール依存者の約半数(46.9%)は妊娠が確定してからもワイン飲酒を続けていた。しかし、飲酒頻度や一日当たりの飲酒量は飲酒自覚前に比べて明らかに減少していた(<math>p&lt;0.01</math>)。35 人のアルコール依存者は妊娠の自覚後、アルコールの種類をワインへ変更していた。</p> <p>(結論)</p> <p>アルコール依存者は妊娠の自覚後はワイン以外のアルコールは飲酒を控えたり、飲酒量を減らす、アルコールの種類をワインに変更していた。</p>	